

# 学校吹奏楽部における一考察

栃木県吹奏楽連盟事務局長 星 弘敏

## 1 はじめに

栃木県内では、殆どの公立学校が6月1日より通常登校、通常授業を開始した。それに伴い部活動も実施時間やソーシャルディスタンス、器具の消毒等の制限の中、徐々に正常化してきています。

吹奏楽部においても例外なく活動を開始しているところではありますが、楽器の吹奏によるマイクロ飛沫の現状を科学的に実証した例が少なく、各学校では、吹奏楽部活動実施に不安の中で取り組んでいる方々が多いのではないのでしょうか。

また、新入部員、特に中学校においては、楽器初心者への楽器体験や楽器貸与の方法に苦慮しており、中には新入生には打楽器のバチでのリズム練習のみを強いている学校もあるのではないのでしょうか。

しかし、ここ半月の間に国内のオーケストラや吹奏楽の学会、楽器メーカーなどが協力し、弦楽器や管楽器演奏時におけるマイクロ飛沫の実証実験や、ホールでの演奏実証などを行い、その様子がインターネット上にアップされるようになり(栃吹連のホームページ参照)、演奏条件が科学的且つ具体的に示されるようになってきました。ここでは、現在把握することができる情報をもとに、学校の吹奏楽部活動の中で何が出来るかをやってみた一つの試みを提案させていただきます。あくまでも一つの試みでありますので、各学校での吹奏楽部の活動の一助になれば幸いです。

## 2 練習の具体的方法

新入生 → 新入生体験用の貸与楽器は一本につき、1日に一人を割当て、割当たらなかった生徒はマウスピースによるバズィング(金管)やアンビシュア練習(木管)を行わせています。

その際、楽器を吹奏できる生徒はソーシャルディスタンス(検証では1.5m)を保ってロングトーン。マウスピースのみの生徒はマイクロ飛沫を防ぐため金管はペットボトルを利用しています。(写真参照1)

木管(リード楽器)は個人でハンカチやタオルを片手に持ち、そこにマウスピースやボアカルの解放部を向けて音出しをさせています。

フルートは、頭部管での練習はマイクロ飛沫が多く見られるので、廊下の水道の流しのところで行っています。

1年生の練習時間は実質1時間の抑えています。

2,3年生 → 基本個人所有や専用の貸与楽器を使用しているのでソーシャルディスタンスを保つ中で音出しを行っています。また、金管のバズィング練習は新入生と同様に行います。

合奏については、2,3年生部員が27名であるため、通常の音楽室で(写真2)のような配置(ソーシャルディスタンス:1.2m)で合奏練習を行います。その際注意しなければならないことは、

- ① 返事はできるだけ控える。
- ② 生徒同士、大きな声での指示や連絡、私語は絶対にしない。
- ③ 不用意に他の人に触ったり、接触したりしない。
- ③ ドレーン(俗に言うつば)の処理:下に垂れ落ちる楽器は、その部分に犬や猫用の尿パットあるいは大人用のおむつを敷く。唾抜き付の楽器は、必ず大きめのタオルで唾抜き部分の部分を覆いドレーンを拭き取る。
- ④ 合奏が終わり楽器の片付けが終了したら、必ず石鹸で手を洗う。

I



II



人数が多いバンドの場合は、木管、金管の分奏または、バンドを2等分し、時間差をつけた合奏練習。条件が整う場合は、オープンスペースや体育館を利用し、ソーシャルディスタンスを保てるように、合奏を行うことができます。まだまだできる工夫はたくさんあります。是非いろいろな方法を試してみてください。

### 3 楽器の殺菌・消毒

金管：マウスピースは写真Ⅲに示すように、毎日塩化ベンザルコニウム、水、アルコールの混合溶液に浸して殺菌消毒を行っています。それぞれの薬品は、保健室の先生や、理科の先生にご協力してもらいます。

管体内部は基本水洗浄の後、アルコール噴霧（届くところのみ）。個人所有及び個人専用の貸与楽器は2週間に一回程度、新入生が交代で使う楽器（幸いなことに大型楽器はありません）は毎日行います。

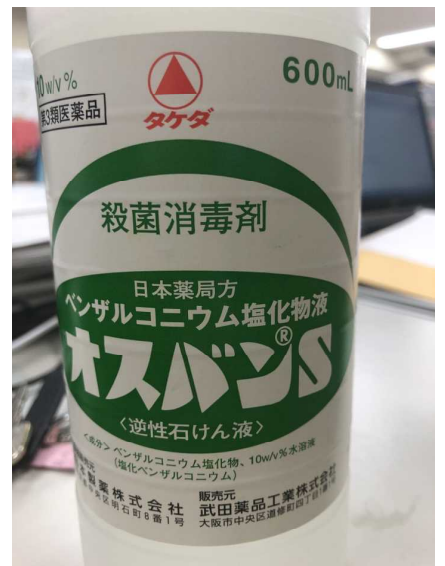
木管：写真Ⅳに示す器具を使い（使い捨て）クラリネット、サクスのマウスピースはアルコールで、フルート、オーボエ、クラリネットの管体はアルコールと水、塩化ベンザルコニウムの混合液（アルコールは少量）で消毒後、すぐにスワブで拭き取っています。サクス、ファゴットの管体は、クリーニングスワブにアルコール使用のウェットティッシュを縛り、通し拭きしています。いずれも使う消毒液の調合と染みこませる量に注意を払うことと、くれぐれもタンポには消毒液がつかないように注意してください。

打楽器：使ったバチやマレットをアルコール使用のウェットティッシュで拭きます。

Ⅲ



Ⅳ



#### 4 おわりに

ここに紹介させていただいたのは、6月1日部活動再開の日から、約1ヶ月間私の学校で実施してきたもの例です。もっと細かく注意をしなければならないことが多々ありますが、紙面の都合上、概要を載せました。今のところ部員にも楽器にも異状は見られていません。ただ、人間には固有の性質、楽器にも固有の事情がありますので、もし試してみる場合には自己責任でお願いいたします。

とにかく今は、何ができるか思い立ったらやってみるほか手立てはありません。公的機関から出された新型コロナへの諸注意を守りつつ、そして今後も発表されるであろう科学的実証の結果を見据え、皆様の英知で子供達の吹奏楽への情熱を絶やすことがないよう、今後も頑張ってください。

是非、よいアイデアがありましたらお知らせください。

お問い合わせ：[hstar@virgo.bekkoame.ne.jp](mailto:hstar@virgo.bekkoame.ne.jp) へ

※ 今後も情報を更新します。